

合電(高崎)が木城進出

空調技術でシメジ量産

来月操業

一般電気工業の合電(高崎)が、有馬逸社長、三十三(宮崎市島之内、資本金三十一人)が県と木城町の誘致



企業として同町に進出することになり、同役場で二日、立地協定を結んだ。ハイオ技術でハタケシメジを量産するための研究施設を同町高城に建設。投資額は三億三千万円で、十一月に操業開始する。地元を中心に年度内に十人を採用する予定。本年度の県誘致企業は十件目で、研究分野での誘致は初めて。

合電は主に工場のクリーンルームなどの湿度や温度、照度を制御する電気工事を手掛け、年間売上高は立地協定書に調印する有馬社長(奥左から三人目)ら

11月2日午後、木城町役場

約六億円。

今回、初めてハイオ部門に参入。同町高城の約七千二百平方メートルの敷地に研究施設「夢の森だけ研究開発センター」(二千四十平方

メートル)を建設。同社の空調技術を生かし、ハタケシメジを量産できるハイオ・環境制御技術を研究、開発する。特許権を取得した上で、フロント、技術を関東や東北地方を中心として全国に販売する計画。

ハタケシメジは菌糸の良さが特徴で、さまざまの料理に使えるが、人口栽培が難しく、現在はほとんど市場に出回っていない。同社は木城町で生産したハタケシメジを「夢の森だけ」

としてブランドを確立し、将来的に年間生産高五十億円を目指す。

黒木傳町長は「立地はありがたい。町としてもできるだけの支援をしていきたい」と歓迎。有馬社長は「工場を拡張しながら、安全で健康にいいハタケシメジを作り、宮崎ブランドとして広めたい。将来的にはマツタケの人工栽培にも挑戦したい」と述べた。

合電 ☎09885(62)5151。